



松代中学校区「授業参観週間」 小中学校の教職員の相互参観です。
(説明は 5 ページ)

巻頭言 『「最強」の学級担任 』

学校教育課 指導管理主事
藤田 剛

「子どもの学力を伸ばそう」という話になると、最終的には「学び合う教室の雰囲気」が大事」となり、「やっぱり学級経営だよなあ」となります。

有名な「ホーソンの研究」の例を出すまでもなく、これは「真」でしょう。だから十日町市教育委員会も、「居心地のよい学級づくり」に力を入れているわけです。

「いい先生」といわれる人の「いい」の部分。何がそんなに「いい」のか。そういう教師の何が優れているか。これを研究ベースに乗せるのはなかなか難しいけれど、面白そうです。優れた教師の実践には必ず、その人がもっている哲学の部分や理論が存在しています。子どもの力を総合的に高める教師はどんな教育哲学をもっているのか、大いに興味があります。

個人的に「最強の学級担任」だと思っている人がアニメの中にいます。「ちびまる子ちゃんの担任の先生」です。眼鏡をかけてきっちり七三に分けた髪型で、常に丁寧な言葉遣い。穏やかな人柄。

対してあの学級のメンバーは…。まる子は無気力で理屈っぽくて、優しい面もありますがなかなか子です。たまちゃんは優等生ですが、父親がちよっと変わっています。藤木、永沢、小杉、山田、はまじ、ブー太郎、みぎわさん、丸尾くん、花輪くん…誇張はあるのですが、あのメンバーはすごい。しかもギャングエイジ、小学校3年生という発達段階。私にはあの学級を経営することは無理だと思います。

それをあんなに上手にまとめて集団として成り立たせている。あの戸川先生（お名前知っていましたか？），相当な実力者です。

別に戸川先生の真似をしなくてもいいですが、「学級経営が大事だよなあ」というのなら、何が大事で、どこをどうしたらいいのか、「WEB QU」の結果を詳しく解析するなどして、教科指導と同じくらいに大切に考えてみませんか？

小中一貫教育

■第1回小中一貫教育及びコミュニティ・スクール推進協議会(7月27日(水))

この会議は、学校の教員や保護者代表・地域の代表者を集め、十日町市の小中一貫教育とコミュニティ・スクールの推進に向けて、協議や提案をしてもらう会です。

今回の小中一貫教育に関する協議題は、「十日町市の小中一貫教育の経緯と今後について」です。平成22年度に策定された十日町市小中一貫教育「基本計画」を今年度に見直すことになっています。そのことを踏まえて、これまでの小中一貫教育の取組と現状、今後について協議していただきました。

委員さんから出された主な意見と上越教育大学松井千鶴子教授からいただいたご指導について紹介します。



今後も継続すべきこと

- ・居場所づくりという取り組みはよい。心を大切にする、自分の個性に気づく、心を穏やかにするなどの取組を進めるといい。
- ・子ども自体の課題はそう変わっていないのではないかな。その視点からすると今の取組を継続することが必要である。
- ・自己有用感を育むということから学力が向上したという姿も見られるということであるから、自己有用感を育むことやそれをさらに進める今年から始められた居心地のよい学級づくりに力を入れていくことが大切なのではないかな。

見直し・改善すべきこと

- ・基本計画は、社会の現状・変化をとらえて作り変える必要がある。
平成22年の作成当時は、児童生徒の非行や自信のなさが問題とされ、自己有用感を高めることが大切であるととらえられた。
- ・子どもたちの課題はそう変わってはいないが、学校を取り巻く社会の変化は大きい。学校の教職員の負担も大きくなっている。小中一貫教育の取組に地域の力を一層借りて地域と学校で一緒に進めていくことがいいのではないかな。
- ・自己有用感は、心の問題なので取り組みにくい面もある。具体的な取組事例を教職員と保護者で共有できるよう発信していけばよい。
- ・教員の働き方改革が大切。改善の取組も継続できるよう地域の協力が得られるような仕組みが大切。部活の地域移行、民間人の活用(教員免許がなくても)。



松井千鶴子先生のご指導

松井教授からは、次の3点から、小中一貫だけではなく、コミュニティ・スクールも含めて検討していくようご指導をいただきました。

- ・自立性のある特色のある教育を…中学校区ごと、学校ごと、一人一人の先生が小中一貫教育の中で自分が何をすべきなのか考える自立性が求められる。
- ・学校と地域の壁はまだある…地域と連携できるところはまだまだあるのではないかな。
- ・新しい教育の形と教育経営を…学校も校舎から出て、地域づくりの事業に計画段階からかわるなど、地域と一緒に進める活動も視野に入れる。

これらのご意見やご指導も踏まえ、10月から「小中一貫教育基本計画」改訂に向けて、検討部会の人選と検討作業を進めていきます。

教育相談班より

■ 1学期の「不登校・いじめ認知」の状況

○不登校の状況（令和4年4～7月）

※（ ）内は、昨年度同時期の値

	小学生	中学生	小中計
不登校児童生徒の割合	0.59% (0.40%)	3.46% (2.57%)	1.54% (1.14%)

小中学生ともに、**不登校児童生徒数及び割合は増加傾向**であり、1学期末現在、不登校数は昨年比で小学校 1.4 倍、中学校 1.3 倍です。家庭や関係機関と連携したきめ細やかな支援（寄り添う、共感的理解、受容）とともに、不登校課題未然防止教育をお願いします。→ [資料1](#)

R4 十日町市不登校対策研修会「不登校対応のポイント」（中越教育事務所）より

資料1

- 児童生徒が、SOSを出すことの大切さ（援助希求）**→ 新潟県自殺予防教育プログラムを活用した「SOS の出し方に関する授業」を年1回以上確実に実施する。
- 教職員の相談力向上のための取組**→ 子どもから援助希求 (SOS) を出してもらえること。教師がそのような存在として、子どもに認識してもらっていることが重要。

○いじめ認知の状況（令和4年4～7月）

※（ ）内は、昨年度同時期の値

	小学生	中学生	小中計
いじめ認知件数	41 (41)	29 (47)	70 (88)
1,000 人あたりの認知件数	18.5 (18.3)	26.4 (40.2)	21.1 (25.8)

校内における報告体制の整備と市教委との連携強化のため、**学校から市教委への迅速で正確な報告体制（いじめ認知日を含めて5日以内に報告）**をお願いしております。今後も、いじめの認知漏れがないよう、学級担任等が抱え込まないよう、組織的な対応をお願いします。→ [資料2](#)

なお、認知したいじめは安易に解消としないよう、再発防止に向けた継続的な見守りをお願いします。→ [資料3](#)

「いじめの防止等のための基本的な方針」（文科省）より

資料2

いじめ防止対策推進法第23条第1項は、「（省略）」としており、**学校の教職員がいじめを発見し、又は相談を受けた場合には、速やかに、学校いじめ対策組織に対し当該いじめに係る情報を報告し、学校の組織的な対応につなげなければならない。**すなわち、学校の特定の教職員が、いじめに係る情報を抱え込み、学校いじめ対策組織に報告を行わないことは、同項の規定に違反し得る。 ☞ **「抱え込み」は法令違反**

資料3

いじめは、単に謝罪をもって安易に解消とすることはできない。いじめが「解消している」状態とは、少なくとも次の2つの要件が満たされている必要がある。

- ① いじめに係る行為が止んでいる状態が相当の期間継続していること
→ 少なくとも3か月を目安とする。
- ② 被害児童生徒が心身の苦痛を感じていない状態になっていること
→ 被害児童生徒及び保護者に面談等で確認する。

☞ **防止に向け、継続的な見守りが必要**

学習指導班より

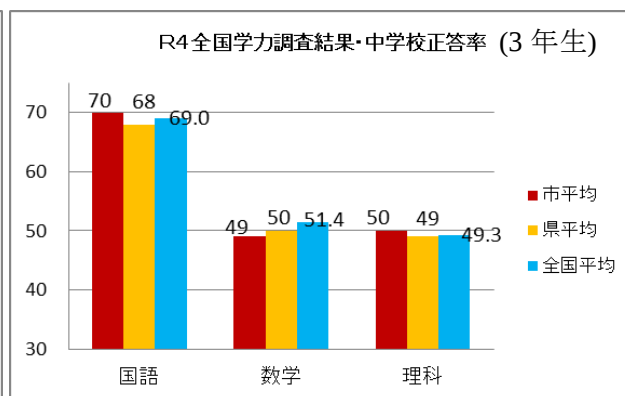
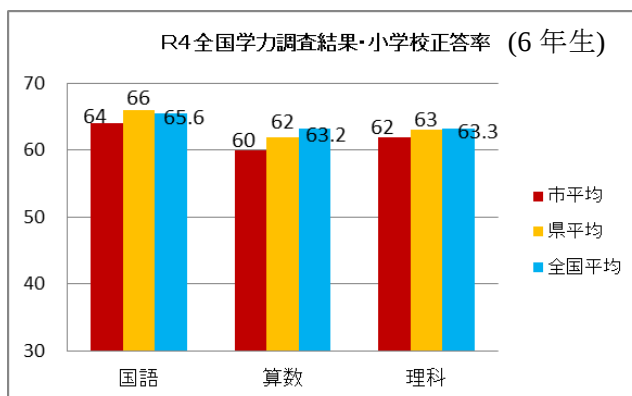
令和4年度 全国学力・学習状況調査結果

本年度4月に行われた標記の調査結果です。小学校では、国語・算数・理科とも全国・県を下回りました。中学校では、数学は全国・県を下回りましたが、国語・理科は全国を上回りました。調査の目的は、自らの教育活動や授業づくりの成果と課題を把握・検証し、今後の取組の改善にあります。あくまでもNRT学力検査と同様、学力の実態を表す一つの指標ですが、各学校においても結果を分析し、日々の授業づくりにいかしてください。

1 平均正答率（％）（※市・県は整数で、国は少数第一位で公表）

R1小学校 (6年生)				R3小学校 (6年生)				R4小学校 (6年生)			
	国語	算数			国語	算数			国語	算数	理科
市平均	64	66		市平均	60	66		市平均	64	60	62
県平均	68	66		県平均	64	69		県平均	66	62	63
全国平均	63.8	66.6		全国平均	64.7	70.2		全国平均	65.6	63.2	63.3

R1中学校 (3年生)				R3中学校 (3年生)				R4中学校 (3年生)			
	国語	数学	英語		国語	数学			国語	数学	理科
市平均	73	58	52	市平均	65	54		市平均	70	49	50
県平均	74	60	55	県平均	65	56		県平均	68	50	49
全国平均	72.8	59.8	56.0	全国平均	64.6	57.2		全国平均	69.0	51.4	49.3



2 全国比（全国を100としたときの市の値）

R1小学校 (6年生)				R3小学校 (6年生)				R4小学校 (6年生)			
	国語	算数			国語	算数			国語	算数	理科
市平均	100	100		市平均	93	94		市平均	98	95	98
県平均	102	100		県平均	99	99		県平均	99	97	99

R1中学校 (3年生)				R3中学校 (3年生)				R4中学校 (3年生)			
	国語	数学	英語		国語	数学			国語	数学	理科
市平均	100	99	98	市平均	101	95		市平均	101	95	101
県平均	100	100	99	県平均	102	99		県平均	99	97	99

これからの学習の定着を把握するためには、WEB 配信診断問題が有効です。実施と振り返りを着実に行うことで、令和5年度のNRTや全国学力・学習状況調査に成果が表れます。有効に活用してください。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～10・11月～

日 時	内 容 ・ 会 場	備 考
10 月 6 日 (金)	新潟県コミュニティ・スクール研修会 (十日町市主催:ズーム開催)	○実践発表 上野小学校 まつのやま学園 ○講演 小見まいこ様(文科省 CS マイスター)
10 月 20 日 (木)	第 6 回特別支援教育研修講座 「授業改善Ⅱ」 【ふれあいの丘支援学校】	講師：上越教育大学大学院 教授 村中 智彦 様 対象：特別支援学校教職員 特別支援学校勤務経験者 研修会講師経験者 他、それに準じる方
10 月 25 日 (火)	ミニ講座(道徳)	
10 月 31 日 (月) ～	WEBQU②の実施	
11 月 7 日 (月)	小学校外国語サポート訪問 (まつのやま学園)	
11 月 8 日 (火)	小学校外国語サポート訪問 (水沢小)	
11 月 9 日 (水)	ミニ講座 (国語)	
11 月 11 日 (金)	エキスパート教員研修② (千手小)	
11 月 14 日 (月)	小学校外国語サポート訪問 (千手小)	
11 月 15 日 (火)	新採用・若手事務職員研修②	
11 月 16 日 (水)	人権教育、同和教育教職員研修会 【千手コミセン】	講師：部落解放同盟新潟県連合会 副執行委員長 嶋田 守雄 様 対象：十日町市立学校教職員 十日町市立保育所職員 十日町市人権関係職員
11 月 17 日 (木)	小学校外国語サポート訪問 (東小)	
11 月 24 日 (木)	図書館教育担当者研修	
11 月 30 日 (水)	第 7 回特別支援教育研修講座 「個別最適な学びの具現を 目指す学校経営」 【千手コミセン】	実践発表：水沢小学校 校長 田村 晃夫 様 南中学校 校長 宮澤 均 様 情報提供：ふれあいの丘支援学校 校長 上松 武 様 対象：学校管理職

【表紙写真の説明】

松代中学校区では、例年、小中交流の「授業参観週間」を実施しています。今年度は、9月26日(月)から10月6日(木)までを期間として実施しました。

「授業参観週間」では、異校種の授業を見合うことを通し、児童生徒の理解と小中職員の交流を図ることを目的としています。公開のための特別な授業ではなく、普段の授業や児童生徒の様子を見てもらうこととし、どの学年、どの教科の授業も自由に参観できます。参観者がそれぞれに「参観の視点」を設定して、「自校の授業に生かせそうなところ」や「気づき」を書き残します。

参観する職員が、指導案や資料のような紙面ではなく、現場の空気を感じながら主体的に学ぶ貴重な機会になっています。